

学校教育目標	未来を拓き 人間力豊かに 学び続ける高見っ子の育成		
--------	---------------------------	--	--

a ミッション	〇小中連携教育を基盤としたカリキュラム・マネジメントの推進による 主体性・表現力の育成	a ビジョン	人間の根っこを育てる学校づくり
---------	--	--------	-----------------

尾道市立高見小学校

評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
気付き、考え、行動する子供の育成 (主体性・表現力・関わりの育成)	関わり合いを通じた主体的な学びの確立	主体的に学習に向かう児童の育成。	主体的に学習に向かう児童の育成のために「? (はてな)」をもたせるための教科研究を行う。	自ら問題を見付け、解決に向けて主体的に学ぶことができた児童の割合 (児童アンケート)	80	83	93.2	116	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科の授業を中心に児童が「? (はてな)」をもち、主体的に学ぶことのできる授業づくりに取り組んだ。2学期末児童アンケート「理科の授業の中で、自分なりの「? (はてな)」(疑問や課題)」をもちながら学習を進めた」という項目に対し、肯定的回答をした児童の割合は93.2%であった。</li> <li>広島大学大学院教授 木下先生を招聘し、児童の学びをつなぐための授業づくりについてご指導いただいた。</li> <li>算数科や生活科でも、児童は、「? (はてな)」をもち、主体的に学ぶことができるようになってきた。国語科や社会科などの教科でも児童が「? (はてな)」をもち、主体的に学ぶことができるようにしていきたい。</li> </ul>	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>理科の授業は、楽しそうです。答えを出すまでの過程を楽しめるような授業です。</li> <li>はてな?は、誰にとっても一生の課題ですよ。いつもこうしたことを大事にしないと!と思う子どもが育っていることがすごいです。</li> <li>継続的に研究会等を開催し、目標に照らした授業づくりを開催している。また、その中で若手の教員への授業づくり。学級運営に関する助言や支援を行いつつ、学校としての教育力を高めようと努力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科の授業以外でも、児童が「? (はてな)」をもち、主体的に取り組むことができるように授業改善を進め、校内で共有していく。</li> <li>授業研究だけでなく、日々の授業の中でも児童が主体的に取り組むことができるような工夫を教員一人ひとりが考え、実践し、広めていく。</li> </ul>
			基礎的・基本的な学力を高めるために、「指導と評価の一体化」を図る。	国語科・理科単元末テスト(知識・技能)における平均通過率	85	国語 85.2 理科 88.9	国語 85.9 理科 88.5	国語 100 理科 105	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語については目標値を下回る学年もあったが、全年80点を下回ることはなかった。チャレンジ教室や漢字の小テストを実施したことで学習の定着につながった。</li> <li>辞書やタブレット、あいうえお表やローマ字表などを身近に持っておくことで、いつでも言葉を調べられる環境を整えることができた。</li> <li>国語科では、速読・音読・黙読等読むバリエーションを増やすことで、読む力を養成していきたい。</li> </ul>	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>読書の機会を引き続き、もっていかたいと思います。</li> <li>地道な取組がなされていると思います。学校にこないことを選んでいる子ども達は、親の選択なのか学校に一人があるのか気になります。</li> <li>小規模校ならではのきめ細やかな指導が行われており、国語に関する学力は一定程度、担保されていると評価できる。今後、若い教員が経験を積んでいくことで、さらに授業力が向上し、児童の学力が向上すると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の読書や国語の授業での音読・黙読・速読、漢字読み小テストの実施を継続して行い、児童の基礎的・基本的な学力を高める。</li> <li>国語科以外の授業においても音読・黙読・速読を取り入れることで、読む力を育てる。</li> <li>チャレンジ教室を継続させ、学力に課題のある児童に対して個別支援を行い、学力の底上げを図る。</li> </ul>
	人との関わり合いを通じた、相手意識をもった人間関係の形成	「しまっこしぐさ」を基盤とし、発達段階に応じたあいさつを通して相手意識をもったあいさつができるようにする。	毎月のあいさつ週間カードの「振り返り」に、「友達のよいあいさつ」を見つけた児童の割合	80	76	75	83	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期当初は児童もよく挨拶をして、目標値を達成しているが、6月7月と挨拶をする児童が減っていたという気が複数の職員からあがり、実際に数値も目標を下回った。また、2学期も同様に数値を下回った。振り返りカードには、「友達のよいあいさつ」を記入することになっているが、学年実態によって、友達のあいさつでなく自分のあいさつの振り返りのみを記入していたことも数値が下回った要因の1つであった。</li> <li>3学期では、あいさつ週間の前や週の途中に、よいあいさつの具体や、体現できている児童を紹介するなどすることで、それを意識してあいさつしようとする児童が増えてきたため、生徒指導部で継続して行っていきたい。また、普段から自然とあいさつがえられるよう、学校として、担任も担任以外も、児童にあいさつの指導・声かけを続けていく。</li> </ul>	2		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご挨拶は、いつも元気にしてくださいませ。</li> <li>偶然かもしれませんが、出会った子ども達はよく挨拶してくれました。</li> <li>これだけ細かくチェックし、表にして比較していく労力の方が大変な気がします。</li> <li>挨拶については、登下校の時などにはしっかりしている様子が見られる。入学前の児童を小学校へ招待する等、小1ギャップの解消に取り組むなど、人とのかかわりを大切にしている校風が継続されている。先生方も大きな声で笑顔で挨拶されていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会と連携し、あいさつ運動を行ったり、良い挨拶をしていた児童を6年生が紹介したりするという取組を行う。</li> <li>挨拶を自主的にするようにカード(掲示物)をつくり、各教室の扉にはる。</li> </ul>	
自己を振り返り、よりよく生きようとする態度の育成	自らの生活を振り返り、よりよく生活しようとする態度の育成	成果を実感できるよう、生活上のめあてを明確にし、それを意識した振り返りをさせる。	生活リズムチェック表において、早寝・早起きを達成できた児童の割合	80	85	84	106	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>早寝・早起きの数値が少し下がった。原因として、金曜日と休日で多くの児童がメディアの使用時間を守れていない児童が依然として多く、それに伴って寝る時間が遅くなっているのではないかと考える。メディアの使用時間の設定については、各学級での指導・ほげんだよりの目安時間の紹介・保護者と一緒に時間を決めるなどの取り組みを行った。メディアの使用時間が増えた場合の身体への影響や、早寝・早起きをする利点を保健指導するなどし、意識付けが必要である。</li> </ul>	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>これだけ細かくチェックし、表にして比較していく労力の方が大変な気がします。</li> <li>かくれたいじめに繋がることさえなければ、(特にネットやスマホの利用で)もう少しおほかたあってもよいのではないかと感じてしまいます。</li> <li>生活リズムを整えることを一貫して取り組んでいることは大変すばらしいと思う。一方、メディアの使用時間については、高見小学校だけでなく、社会の課題となっており、小学校の中だけでは解決できない課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアやSNS、ゲームの長時間にわたる使用に関する身体への負担や影響、早寝早起きをするることによる利点などを保健指導を通して各学級で行う。</li> </ul>	
		体を動かす機会を作り、友達と体を動かす楽しさを感じさせることで、運動好きな児童を増やす。	体を動かすことに肯定的な児童の割合 (児童アンケート)	80	94	91	118	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動をすることに肯定的な意見をする児童が9割以上であった。児童会によるレクを行ったことや、アンケートをとる際に「運動」の具体例を挙げることでイメージしやすく工夫したことが理由と考えられる。</li> <li>児童会のレクに加えて、係活動で外で遊ぶ学級が増えている。しかし、持久走記録会などの大きな行事もあり、苦手意識を示す児童が増えた。</li> </ul>	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>「なわリンピック」に向けて2分間がんばることの取組が良かったです。</li> <li>たくさんの工夫がなされており、いろいろな体の動かし方、友とのかかわりを体験しているように思います。</li> <li>運動に関する質問項目に工夫する、児童会や学級で時間を確保するなどし、児童の運動を好きにさせるように取り組んだ点が評価できる。ただし、全国的な酷暑により、野外での運動の制限だけでなく、フールの使用や登下校時の対策など、前提となる環境変化があり、安全対策の方も両立させなければならぬ点が困難であったのではないかと推測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に運動と関わることができるよう、児童会だけでなく学級での係活動も含めて、レクリエーションを企画する機会を設ける。</li> <li>気温や環境に考慮しながら、室内で行ったり、ストレッチなどの静的な運動を取り入れたりする。</li> </ul>	

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。